



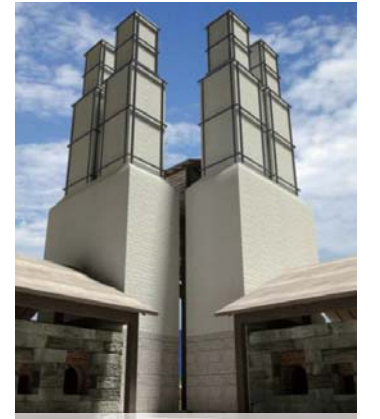
蕪山反射炉世界遺産登録決定  
(7月5日：蕪山時代劇場)

# 蕪山反射炉を未来に



## 先人たちから刻まれた 蕪山反射炉の保存の歴史

### 白亜の塔だった蕪山反射炉



CGによる再現イメージ

蕪山反射炉といえば、レンガとそれを囲う鉄の筋かいが特徴的ですが、建設当初は「白亜の塔」でした。当時は、レンガの上から漆喰がぬらされていたのです。

鉄の筋かいは、昭和32年（1957）の大修理のときに、地震から反射炉を守るために補強用で取り付けられたものです。その後、平成元年（1989）にさらに丈夫なものに付け替えられ、今に至っています。

こうした取り組みの結果、蕪山反射炉は実際に稼働した反射炉としては、国内で唯一ほぼ完全な形で保存されています。

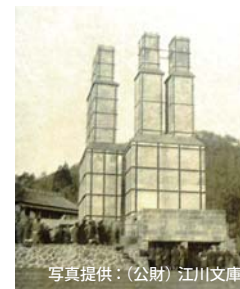


写真提供：(公財)江川文庫  
明治初期の蕪山反射炉

### 地震との格闘の歴史

蕪山反射炉の外観の変遷をたどると、地震との格闘の歴史がわかります。建設中の安政元年（1854）に起きた安政の東海地震、昭和5年（1930）の北伊豆地震。強い地震が襲った際に補修され、耐震性の向上が図られてきました。

蕪山反射炉の姿からは、私たちの先人が蕪山反射炉を大切に守ってきた歴史をうかがい知ることができます。



写真提供：(公財)江川文庫  
明治41年(1908)鉄枠による補強後



写真提供：(公財)江川文庫  
昭和5年(1930)北伊豆地震による北炉最上段崩壊



昭和32年(1957)北炉最上段復元と鉄の筋かい補強後



大正15年(1926)、市民を中心とする「蕪山反射炉保勝会」が設置した「反射炉碑」

### 市民が守った蕪山反射炉

明治維新後、工場としての操業を停止していた蕪山反射炉は、荒廃の一途をたどり、幾度となく取り壊しの危機に見舞われます。明治12年（1879）、静岡県令大迫貞清は、後の総理大臣となる伊藤博文に保存の建白書を提出します。これにより、反射炉の建つ場所の土地が国有地化されます。

また、江川英龍の孫婿の山田三良東京帝国大学教授を中心として、反射炉保存運動が起こります。この運動に呼応して、地元有志により反射炉周辺の土地を購入し陸軍省に献納します。こうした動きにより、明治41年（1908）には、陸軍の手によって最初の反射炉保存工事が実施されました。

地元有志はその後、「反射炉保勝会」を設立。以後、反射炉の保存に尽力しました。

蕪山反射炉を含む、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、



静岡県知事  
川勝平太

蕪山反射炉の世界遺産登録決定を受け、これまで応援いただきました皆様から感謝申し上げます。私自身、登録決定の瞬間には、幕末に「里はまだ夜深し富士の朝日影」と嘆かれた江川英龍公が「今、世界の人になられた」と思うと、込み上げてくる涙を抑えることができませんでした。

蕪山反射炉の世界遺産登録が決定し、蕪山反射炉応援団の会員一同大変喜んでいきます。

我々応援団は、蕪山反射炉の世界遺産登録を応援しようと、平成24年4月の発足以来、行政と連携しながら、各種イベントでのPRや清掃活動などを実施してきました。このような取り組みが、地域の皆様の世界

石炭産業」が、世界遺産として正式に登録が決定されたことは、大変喜ばしく思います。

これまで、貴重な産業遺産を大切に守り伝えてこられた地域の方々や、世界遺産登録に向けて御尽力いただいた関係者の皆様方の御努力に心から



伊豆の国市長  
小野登志子

蕪山反射炉は、日本の近代化の象徴です。我々は、蕪山反射炉を将来にわた

り守り続けていくことを世界に対し約束しました。このことを重く受け止めております。

遺産登録に向けた機運醸成に少しでも貢献できたとすれば、私にとってこれ以上の喜びはありません。さて、蕪山反射炉は、文字どおり伊豆の国の宝から世界の宝となりまし

ました。今後は、蕪山反射炉の保全はもちろんです。関係の皆様と連携しながら国内外からのお客様を伊豆全体でおもてなするという取り組みを進め、伊豆の活性化につなげていきたいと思

います。も地域が一体となった保全活動への取り組みや子どもたちへの教育などの活動を実施していきたいと思



蕪山反射炉応援団  
理事長 渡辺解太郎